

ハイライト2005

未来への責任

限りある資源を大切に利用すること、日本の文化と自然を活かしながら、永く住み継がれる住まいと街並みをつくること、積水ハウスに関わるすべての人々がやりがいと喜びを得られる環境をつくること…。これらを通して、私たちが考えるサステナブルの4つの価値を相互に高め、サステナブル社会の実現へとつなげていきます。

このハイライトでは、2005年度の私たちの活動の中から重点的な活動を紹介しています。

サステナブルな地球環境

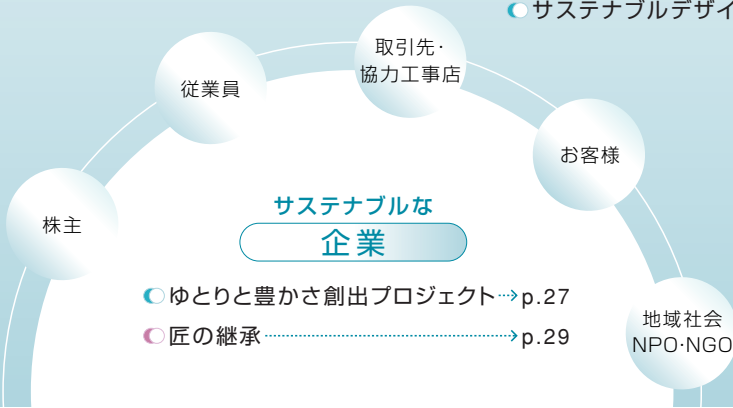
- 「5本の樹」計画 p.13
- 暮らしの中のCO₂削減 p.23
- 新築現場ゼロエミッション p.25

サステナブルな社会

- 持続可能なまちづくり p.10
- 持続可能なライフスタイル p.15
- 住まい手に開かれた研究所 p.17
- 公開シンポジウム p.19
- サステナブルデザインハウス p.21

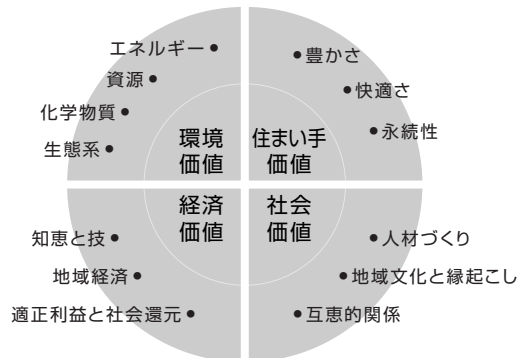
サステナブルな企業

- ゆとりと豊かさ創出プロジェクト p.27
- 匠の継承 p.29



「4つの価値Map」について

ハイライトの各ページには「4つの価値Map」を掲載しています。私たちのサステナブル・ビジョンの中で、その取り組みがどのような価値の向上につながっているかを表しています。



どのようなまちづくりをめざしていますか？

住むほどに愛着が深まり、いつまでも住みつけたいと感じる街をつくりたい…。積水ハウスでは2005年度に「まちづくり憲章」を策定し、街づくりの新たな可能性に挑戦しています。

住み継がれるまちをめざす「まちづくり憲章」

積水ハウスは住環境創造企業として、そこに住む人々とともに、住みよい街づくりを進めていくため、「まちづくり憲章」を定めました。当社のサステナブル・ビジョンに基づき、街づくりにおいて重視すべき指針を掲げています。

今後は全国で「まちづくり憲章」に沿った街の開発を進め、サステナブル社会の構築に貢献していきます。また、当社の考え方を多くの方々にお伝えするため、2006年4月には、この憲章が活かされた街を全国一斉にご覧いただく「まちなみ参観日」を計画しています。

まちづくり憲章

人がいつまでも安心して豊かに暮らしていくために、かけがえのない地球の自然と環境を守り地域の文化とコミュニティを育み、地域経済の活性化に貢献するとともにまちの資産価値を守ることが、私たちの願いです。

積水ハウスは社会の責任ある一員として、住まいと、まちがつくりだす住環境を人の大切な生活基盤と受け止めまちづくりをとおして持続可能な社会の構築に寄与することをめざします。

まちづくり基本指針

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 環境マネジメント ・環境負荷を低減します ・自然を保全し育成します | <ul style="list-style-type: none"> ● 生活マネジメント ・生活の安全・安心を確保します ・生活の豊かさを実現します |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 経済マネジメント ・資産価値を維持し向上させます ・地域経済の活性化につとめます ・コストを適正に管理します | <ul style="list-style-type: none"> ● タウンマネジメント ・地域文化を継承し醸成します ・コミュニティを育成します |



照葉のまち Teriha

「照葉のまち」概要

所在地：福岡市東区香椎照葉
事業用地面積：約18ヘクタール
総区画数：戸建住宅 236戸
集合住宅 1,178戸
賃貸住宅 100戸

福岡・アイランドシティに「照葉のまち」が誕生

2005年9月、福岡市・アイランドシティに「照葉のまち」が誕生しました。住む人がいきいきと暮らせる街をめざしたこのプロジェクトは、今、全国から注目を集めています。

プロジェクトが始まったのは2003年12月。当社はアイランドシティ東南部18ヘクタールの住宅開発事業コンペに参加し、街づくりの提案を行いました。何も無い人工島を、どのようにすれば魅力ある街にできるのか…。当社が提案した街づくりのコンセプトは、ウォーターフロントの特性を活かした「環境共生」の街、誰もが安全・安心・快適に暮らせる「健康」デザインの街、「子ども」がのびのびと健やかに育つ街、良好なコミュニティが形成される「みんなで関わる」街。この提案が評価され、当社は開発に参加することとなりました。開発を進めるにあたっては、街全体の統一感を重視し、国や市が管轄する公園や道路なども調和がとれるよう、話し合いを重ねました。行政と企業が対話を重ね、さまざまなアイデアを出しあうことで上質な街が生まれました。

どのようなまちづくりをめざしていますか？



「照葉のまち」という名前は、日本の原風景としての「鎮守の森」を構成する照葉樹にちなみ、「てりは」と訓読みすることで日本独特の古くて新しい世界観を創造したいという願いを込めています。

照葉のまち
Teriha

理想のまちをつくるさまざまな仕掛け

「照葉のまち」には、「まちづくり憲章」の視点が随所に活かされています。タウンセキュリティで生活の安全・安心を確保することはもちろん、住民同士のコミュニケーションを活発にするコモン（共用）空間の設置、地域の経済活性化に貢献するために、石積みで地元産の石材を用いるなど、さまざまな工夫を施しています。



シンボルとなるクスノキを中心に、地域に自生する常緑・落葉の高木、花や実のなる樹を植え四季のうつろいを感じる里山を再現しました。

「みんなで関わる」まちづくり

「照葉のまち」は産声をあげたばかり。これから、この豊かな住環境を守っていくとともに、住民の方がきずなを深め、相互に助け合える暖かいコミュニティをつくっていくことが大切です。そのため、福岡市の協力のもと自治運営組織「TCA^{※1}」を発足し、街の美化活動やイベントの開催、コミュニティホームページの運営などを進めることになりました。住民全員が街づくりに関わることで、愛着を育み、時を重ねるごとに心豊かに暮らせる街を築いていきたいと思っています。



福岡マンション事業部
梶原 英司

※1 照葉まちづくり協会「Teriha Community Association」の略



◆豊かな時間軸
南北軸とほぼ平行な軸で、季節のうつろいを感じる軸です

照葉の森

◆歴史・伝統軸
香椎宮の軸に位置し、中央公園・照葉の森・海浜緑地へとつぎ大地と海の間でたくましく子どもを育てる軸です



「コモン空間」があることで、隣人とのコミュニケーションが増え、子どもも安心して遊ぶことができます。



積水ハウスが主催した「顔見せ会」。入居前に住民同士が交流を図ります。



福岡県産の耳納石を使った石積みなど自然と調和する素材を活かし、歳月とともに風格が増す上質な街並みを演出。また地元の職人さんに施工をお願いする等、地域経済の活性化にも寄与しています。



歩行者の安全確保のため運転手が対向車に注意して自ずとスピードダウンする緩やかなカーブの道路。



異常発生時には緊急出動するタウンセキュリティを導入しました。



建築協定運営委員会発足当時から関わり、現在も自治会で活躍されている鈴木映男様(写真左)。コモンシティ星田完成時から現在まで住民とともに街づくりに携わってきた積水ハウスリフォーム(株)営業課 小西徳男(写真右)。

**コモンシティ
星田**
Commoncity
Hoshida

2005年度「住まいのまちなみコンクール」で国土交通大臣賞を受賞しました。1軒1軒の庭がきちんと手入れされ、整然とした街並みが維持されています。1996年にも、美しい街並みを表彰する「都市景観大賞」を受賞しました。

時を経てより輝きを増す「経年美化」のまち

積水ハウスが手がけた大阪府交野市のコモンシティ星田は、「永住の街」を理念として、自然と調和し、人にやさしい街づくりを形にしています。自然の地勢を活かした造成、電柱がなく美しい曲線の道路、子どもたちが遊ぶ水場…。

15年を経た今、その美しい景観は、一層風格を増し、周辺地域の人には憧れの街という存在になっています。

コモンシティ星田では、街全体を大切な資産として、住民の手でいつまでも美しく守っていきたいという思いから、完成時より建築協定運営委員会がスタートしました。発足当時から貢献されてきた鈴木さんにお話を伺いました。



秋にはおまつりが開催され、子どもからお年寄りまでさまざまな世代の住民が集います。



街の中をせせらぎが流れ、子どもたちのための水遊び場となっています。

皆で決めたルールを皆で守る

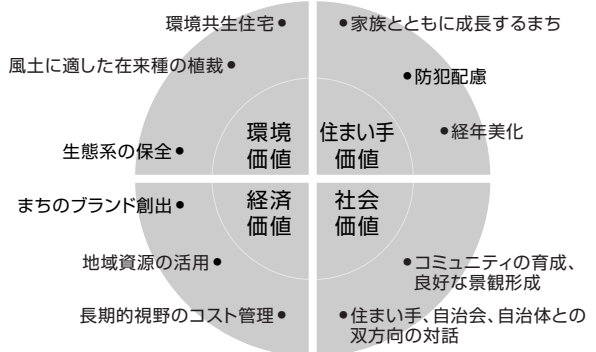
建築協定運営委員会の発足当時は、積水ハウスの営業担当だった小西さんの声かけで、有志5人で始めました。今では10人のメンバーが、それぞれ環境美化、増改築、広報などの役割を分担し、啓発・美化活動などを行っています。美化・清掃活動は、個人の家だけでなく街全体を対象とし、市管理の公園も街の景観の一部となっているので、住民が自発的に行っています。

住民参加でまちづくりの意識を高める

委員会のメンバーになりますと、初めはたいへんですが、2年間の任期をつとめられた後は、皆さん勉強になったと喜ばれます。すべての住民が交代で委員会に参加することで、啓発にもなるのだと思います。2005年度には、「住まいのまちなみコンクール」*2で国土交通大臣賞を受賞することができ、資産価値は高く維持されていると思います。これからも住民が心あわせて街づくりに取り組んでいきたいと思っています。

*2 優れた住環境の維持管理活動を行っている住民組織を住宅生産振興財団が表彰、支援する制度

4つの価値 Map



Web まちづくり憲章 | 環境と調和したまちづくり | 安全・安心のまちづくり | 地域との共生、コミュニティ育成 | まちのブランド創出 | はWebをご覧ください。

日本の豊かな生態系をどう守っていきますか？

積水ハウスでは、庭やまちづくりを考えると、風土に適した日本の原種や自生種、在来種の樹木を植えることを提案しています。2001年度にスタートした「5本の樹」計画は高い支持を受け、さらに次のステップへと進んでいます。



庭木に訪れるさまざまな鳥や蝶から、季節の移り変わりを感ずることができます。

112品種

「5本の樹」計画選定品種

「5本の樹」から始まる庭づくり

「5本の樹」計画では、地域の生態系を守る里山をお手本にし、生きものと相性の良い樹木を選定するだけでなく、気候や植物の適応性などによって日本を5つの地域に分け、それぞれに適した日本の原種や自生種、在来種にこだわり樹木を採用しています。地域の気候風土に合った樹木を植栽することにより、多様な生きものを養い、生物多様性を育むことができると考えます。

庭先から里山を再生し、生態系を守る

日本人は昔から、植物の小さな変化や、そこを訪れる鳥や昆虫から、季節の微妙なうつろいを敏感に感じとってきました。四季の美しさを暮らしに積極的に取り入れてきた日本人ならではの感性を大切に守りたいものです。毎日の暮らしに自然を取り入れることー 積水ハウスでは、日本の豊かな自然を育んできた「里山」をお手本に、「本来の自然」を取り戻す庭づくりを提案しています。

自然も家族もうれしい庭。この庭には「3本は鳥のために、2本は蝶のために」という思いをこめ、庭先から日本の自然を再生しようとスタートした「5本の樹」計画が基本にあります。日本の原種や在来種の中から提案し植えることで、住まいの庭が地域の自然と調和し、お客様とともに地域の生態系を守ることができると考えています。



広がりはじめた「5本の樹」計画

「5本の樹」計画を広げていくためには、まず当社の従業員がよく理解しなければなりません。これまで当社と関係会社の従業員を対象に体験型の研修を実施し、2005年度までに約400名が受講しました。また、自然や生態系についてより高度な知識を持った従業員を増やしていくために「グリーンエキスパート研修」を積極的に行っています。

また「5本の樹」計画をもっと知っていただくためのコミュニケーションツールとして、カタログをはじめ、ポスター、ビデオ、ポストカードなどを展開しています。

こうした取り組みにより、「5本の樹」計画に共感していただけのお客様も増え、活動の輪が広がってきました。



自然観察会やグリーンエキスパート研修には、多くの従業員が積極的に参加しています。



ポストカード、カタログ、ポスターなどいろいろなツールをそろえてお知らせしています。



環境教育プログラム
「Dr.フォレストからの手紙」



子どもたちが身近な自然の存在を学び、在来種の少なさに気づき、自然を守っていくために自分たちに何ができるか考え、行動してもらようなプログラム内容になっています。

ダウンロード <http://www.career-program.ne.jp/program/sekisuihouse>

教育支援活動を開始

2005年度は新たに子どもたちが“体験して考える”環境教育プログラム「Dr.フォレストからの手紙」を作成しました。小学校と共同で作り上げた“体験志向型”の環境教育プログラムをモデル校2校で実施しました。「5本の樹」計画を通して地域の生態系を守る取り組みについて、明日を担う子どもたちに伝えていきます。今後も、企業活動を通じてつながるすべての人々との協働を深めていきたいと考えています。



子どもたちが、真剣に生態系について考えた作品です。



都市部にも多いアオスジアゲハの幼虫はクスノキを好みます。



姿も声も美しいキビタキは、バードウォッチャーの憧れの鳥のひとつです。

暮らしと自然をつなぐ里山

薪や肥料などの採取地となってきた雑木林をはじめ、それとつながる田んぼや畑、小川や池など、人の暮らしと関わりが深い身近な自然のことを里山と呼びます。「5本の樹」を植えた住まいの庭が、人の暮らしと自然をつなぐ里山の一部となることを提案しています。

4つの価値Map



Web [環境と調和したまちづくり](#) [教育支援](#) [NPO・NGOとの協働緑化の取り組み](#) はWebをご覧ください。

どのような住まい方を提案していますか？

自分の手で暮らしを紡ぐ。モノに頼った現代の生活では得られない幸せ、喜びとは何なのでしょう。積水ハウスは「自分流の豊かさ」がある暮らしを住まい手とともに創造し、提案しています。

住まい手とともに考える新しい暮らし

利便性や効率性だけではなく、癒しや健康、自然との触れ合いや人とのつながりなどを求める人が増えてきています。積水ハウスでは、日々の暮らしを通じて本当の心の豊かさを実感できる住まいを提供したいと考え、生活提案の観点から研究、開発を重ねています。日本人の29%がLOHAS*1層と言われる現在。住まい手とともに考える、新しい住まいと暮らしの1例をご紹介します。

*1 LOHASとは「健康と環境を指向するライフスタイル」(Life Styles of Health and Sustainability)の頭文字をとった言葉。当社は、(株)イースクエアが米国調査機関NMIと提携して行った調査に参加しました。



菜園のある暮らし

自宅の庭で野菜をつくる「菜園ガーデン」を庭づくりの提案のひとつとしてスタートさせました。個人の家庭でもなるべく簡単に楽しく取り組めるノウハウやシステムを提案しています。野菜や土に触れることで、人が忘れかけていた「五感の回復」、採れたて野菜を通して「人と人をつなぐ場」となることが実感していただけるはずです。

命のつながりを感じる暮らし



自然の恵みをいただきます。



剪定した枝や枯葉は、肥料になります。

「素人でもなるべくつづけられるように」がわが家のコンセプトです。植栽スペースを木枠で囲み、草抜きや土こぼれを少なくし、美しい景観を保つよう設計してもらったり、透水性の床材を敷いてもらったりしました。

農業は使わず、100%の収穫を人間が独占するのではなく、虫と分け合うという感覚も芽生えてきました。収穫の喜びや子どもの食育など、世界は広がります。庭を与えられて終わりではなく、家族や地域の人々と一緒につくっていききたいですね。



兵庫県芦屋市N邸



菜園スペースを木枠で囲み美しい景観を保ちます。

庭から広がる豊かな世界

「菜園ガーデン」は、私が日頃実践している庭での野菜づくりの提案です。「5本の樹」計画の庭木に菜園を加えることで、庭が小さな里山として、自然との調和がより充実したものになります。菜園ガーデンを暮らしの中に取り入れる素晴らしさを自身の体験を通じて、お客様や一般の方々へ自信を持ってお伝えするとともに、お客様と一緒に「菜園ガーデン」を育てていきたいと考えています。

ハートフル生活研究所

畑 明宏





五感で導く幸福な眠りと目覚め

眠りと目覚めを科学した「睡眠空間」を発表しました。多くの日本人が睡眠について何らかの問題を抱えています。生体リズムと快適性の研究をもとに、「睡眠五感」を刺激し心地よい睡眠を促す空間を提案しています。

眠りの質を高める

睡眠が大切と頭でわかっていても、現実には仕事や娯楽のために睡眠時間を削りがちです。このような生活は、人間が長い進化の過程で獲得してきた眠りのリズムを崩し、深刻な問題となっています。

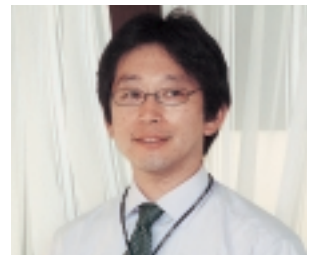
私たちは睡眠リズムと光・音・温熱環境との関係について独自の研究を行い、心

地よい眠りを促す「睡眠空間」を提案しました。睡眠体験のできる展示場や睡眠に関する情報の発信と合わせて、豊かな眠り空間づくりをお手伝いします。眠りを考えることが、忙しい日々の生活を見つめるきっかけになることを願っています。

ハートフル生活研究所 近藤 雅之



「睡眠空間」では「睡眠五感」(視覚・聴覚・嗅覚・温熱感覚・触覚)に働きかける空間設計を行っています。



講演や勉強会に参加し、実際に京都の町家や積水ハウスの総合住宅研究所を訪れ、住まいの知識を深めてきました。これらの経験や自分たちの価値観から、「コミュニケーション」「伝統・文化」「環境と健康」「自主性・自分らしさ」といった住まいづくりのキーワードが見えてきました。2006年度はそれらのキーワードをもとに家を建設します。

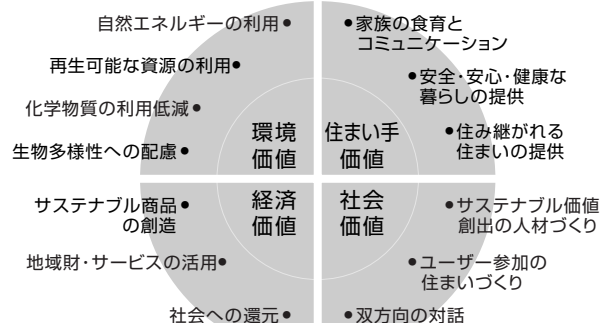
読者とともに考えるこれからの住まい ~eyecoの家プロジェクト

女性に向けた自然や健康、環境に配慮した雑貨を扱う情報誌「eyeco」((株)リクルート発行)の読者とこれからの住まいづくりを考えています。選ばれたメンバーと直接意見交換することで、住まいに対する要望を深く知ることができ、魅力ある新しい暮らしを提案することができます。



メンバーは、総合住宅研究所でさまざまな住まいづくりの視点を学びました。

4つの価値Map



[Web](#) [コンサルティングハウジング](#) [健康に配慮した住まいづくり](#) はWebをご覧ください。